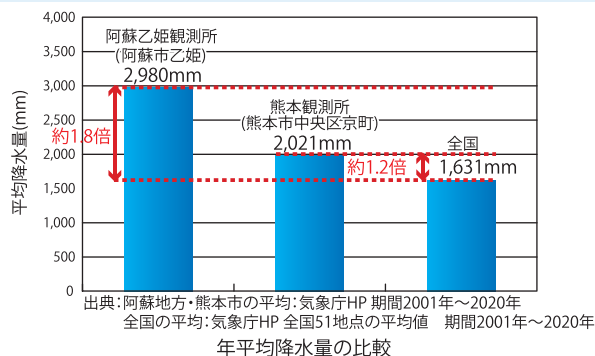


## 白川流域の概要・特徴

白川は阿蘇カルデラ内の根子岳に源を発し、阿蘇外輪山の切れ目である立野火口瀬で黒川と合流した後、中流部の豊かな穀倉地帯を流れ、下流部では熊本市を貫流し、有明海に注ぎます。

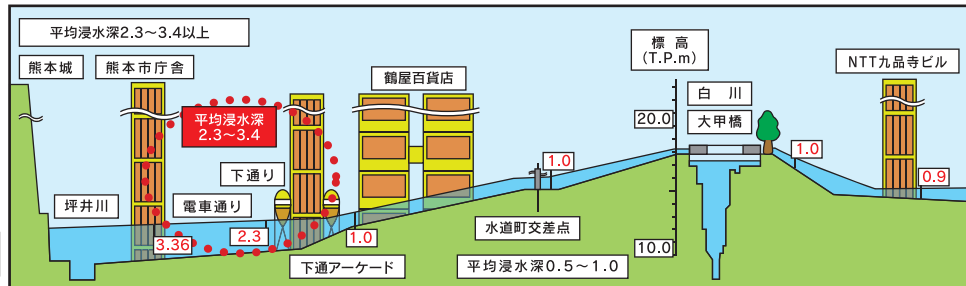
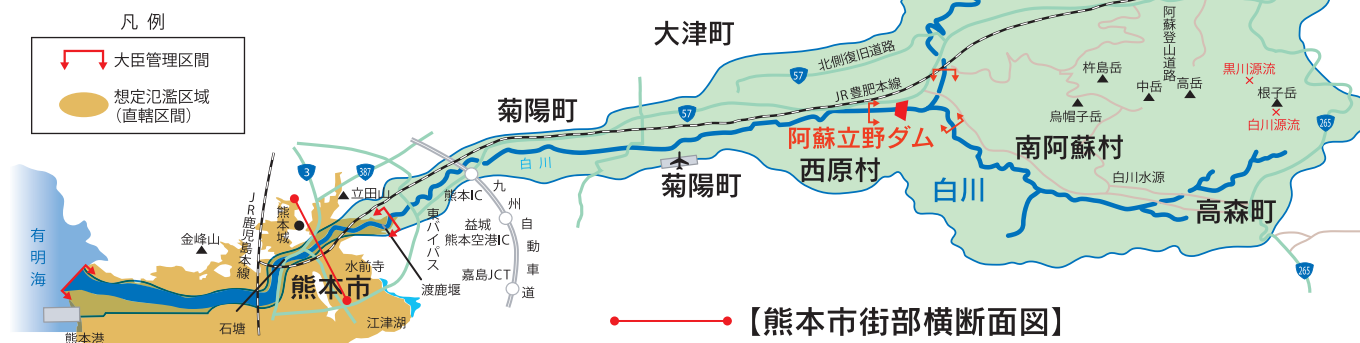
白川の上流域は、阿蘇くじゅう国立公園に指定されるなど、自然豊かな環境を有しています。一方、流域面積の約8割が降雨量の多い阿蘇カルデラであり、下流の熊本市街部では、白川が周辺地盤よりも高くなっており、洪水に対して脆弱な流域特性を有しています。

源	熊本県阿蘇郡高森町阿蘇根子岳
流域面積	480km <sup>2</sup> (九州 14 位)
幹川流路延長	74km (九州 9 位)
大臣管理区間	17.3km (ダム管理区間を除く) 4.4km (阿蘇立野ダム管理区間)
流域内市町村	2市3町2村 熊本市、阿蘇市、菊陽町 大津町、高森町、西原村、南阿蘇村
流域内人口	約 14 万人
想定氾濫区域内面積	約 136km <sup>2</sup>
想定氾濫区域内人口	約 31 万人



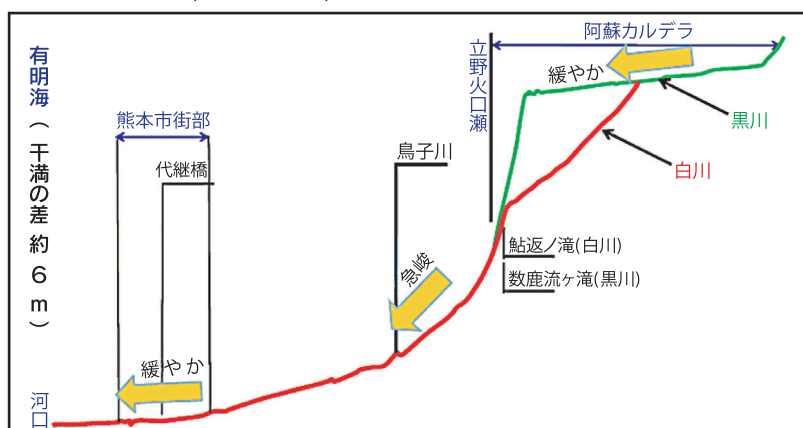
※国土交通省HP分県別統計データより

### 【白川流域図】



### 【河川の勾配(イメージ)】

白川が周辺地盤よりも高くなっており、一度氾濫すると甚大な浸水被害が発生。



### 白川の河川特性

- 阿蘇カルデラに降った雨は、立野火口瀬から一気に流下し、勾配が緩やかになった熊本市街部で流れにくくなる。
- 阿蘇カルデラに降った雨は、約2時間半で熊本市街部に到達する。
- 有明海の干満差は約6mと大きく、満潮と洪水が重なると、河川水位が上昇しやすい。

# 白川の主な洪水

## 昭和28年6月洪水(白川大水害)



6月26日に西日本一帯を梅雨前線による集中豪雨が襲い、各地の川で大洪水が発生しました。

白川においても、26日の日雨量は熊本観測所で412mm、内牧観測所で441mm、黒川で500mmとなり、6月初旬から阿蘇地方で降った大雨で地盤が緩んでいたところへの集中豪雨でした。

山崩れが発生し、**大量のヨナ(火山灰)と流木を含む濁流により橋や堰が流され、堤防が決壊し、熊本市街部は大規模な浸水に見舞われるとともに、大量の泥土に覆われました。**

死者・行方不明者	422名	家屋全半壊	9,102戸
床上浸水	11,440戸	床下浸水	19,705戸

## 昭和55年8月洪水



8月28日から九州北部に停滞していた前線の影響で、29日未明から午後にかけて熊本県北東部、29日夜から30日未明にかけて熊本県北部が集中豪雨に見舞われました。

降り始めからの連続雨量は、阿蘇黒川観測所で最大666mm、熊本観測所で334.5mmを記録し、**白川では氾濫が発生し、熊本市街部に被害をもたらしました。**

代継橋観測所(熊本市)では、30日8時に**最高水位5.88m**に達しました。

死者・行方不明者	1名	家屋全半壊	18戸
床上浸水	3,540戸	床下浸水	3,245戸

## 平成2年7月洪水



7月2日に九州南部に停滞していた梅雨前線が北上し、熊本県北部、阿蘇地方が集中豪雨に見舞われました。

阿蘇山観測所の7月1日23時～7月2日23時までの累加雨量は341mm、時間最大雨量で50mmの降雨となり、**白川では13箇所から氾濫が発生し、熊本市街部に被害をもたらしました。**

代継橋観測所(熊本市)では、2日13時30分に**最高水位5.79m**に達しました。

死者・行方不明者	14名	家屋全半壊	146戸
床上浸水	1,614戸	床下浸水	2,200戸

## 平成24年7月洪水



7月11日から14日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、九州北部では記録的な豪雨となりました。

国土交通省の坊中雨量観測所(南阿蘇村)では最大1時間雨量が124mm、最大3時間雨量が315mmとなり、短時間に記録的な大雨となりました。

代継橋観測所(熊本市)では、12日10時30分に**観測史上第1位となる6.32m**に達しました。

死者・行方不明者	25名	家屋全半壊	183戸
床上浸水	2,011戸	床下浸水	789戸

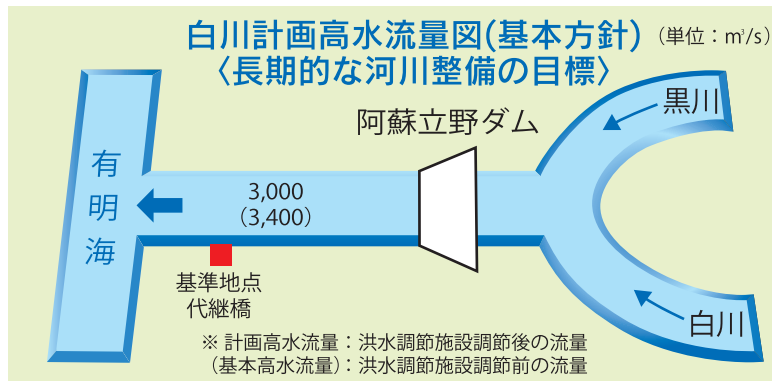
※被害の概要は「昭和28年西日本水害調査報告書(土木学会西部支部)」、「熊本県災異誌(熊本地方気象台)」、「防災・消防・保安年報(熊本県)」、出水記録及び熊本河川国道事務所調査結果による。平成24年7月洪水は国土交通省及び熊本県による調査結果。

※被害の数値には内水被害、土砂災害を含む。

# 白川の整備（河川整備基本方針・河川整備計画）

## 白川水系河川整備基本方針（平成12年12月策定）

白川水系河川整備基本方針は、昭和28年6月洪水等の既往洪水を踏まえ、計画を策定しています。  
 具体的には、洪水ピーク流量を基準地点「代継橋」地点で $3,400\text{m}^3/\text{s}$ とし、そのうち流域内の洪水調節施設により $400\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、河道の配分流量を $3,000\text{m}^3/\text{s}$ とします。  
 昭和28年6月洪水に相当する洪水規模を目標にしています。  
 （年超過確率1/150の規模の洪水）  
 計画規模：白川流域の2日総雨量553mm  
 想定最大規模：白川流域の2日総雨量860mm



## 白川水系河川整備計画（令和2年1月変更）

従来計画に基づく河川整備の進捗や、計画策定以降の河川を取り巻く社会状況の変化、今後の気候変動への適応等を踏まえ、白川の治水安全度の更なる向上を目指し、令和2年1月に変更した「白川水系河川整備計画」に基づき河川整備を進めています。

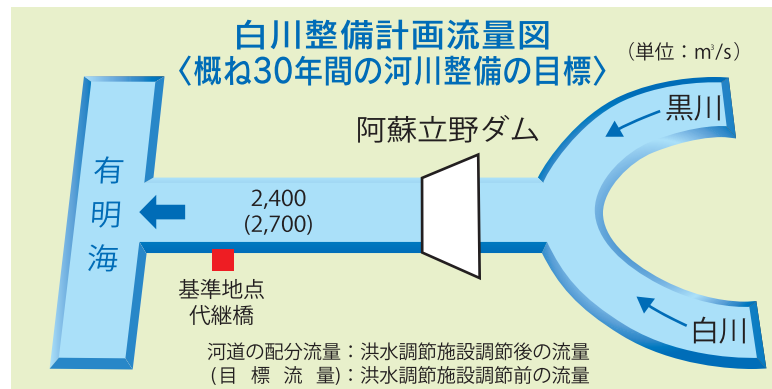
### ●整備計画

○従来計画（平成14年7月策定）  
 整備目標  
 年超過確率1/20～1/30

➡

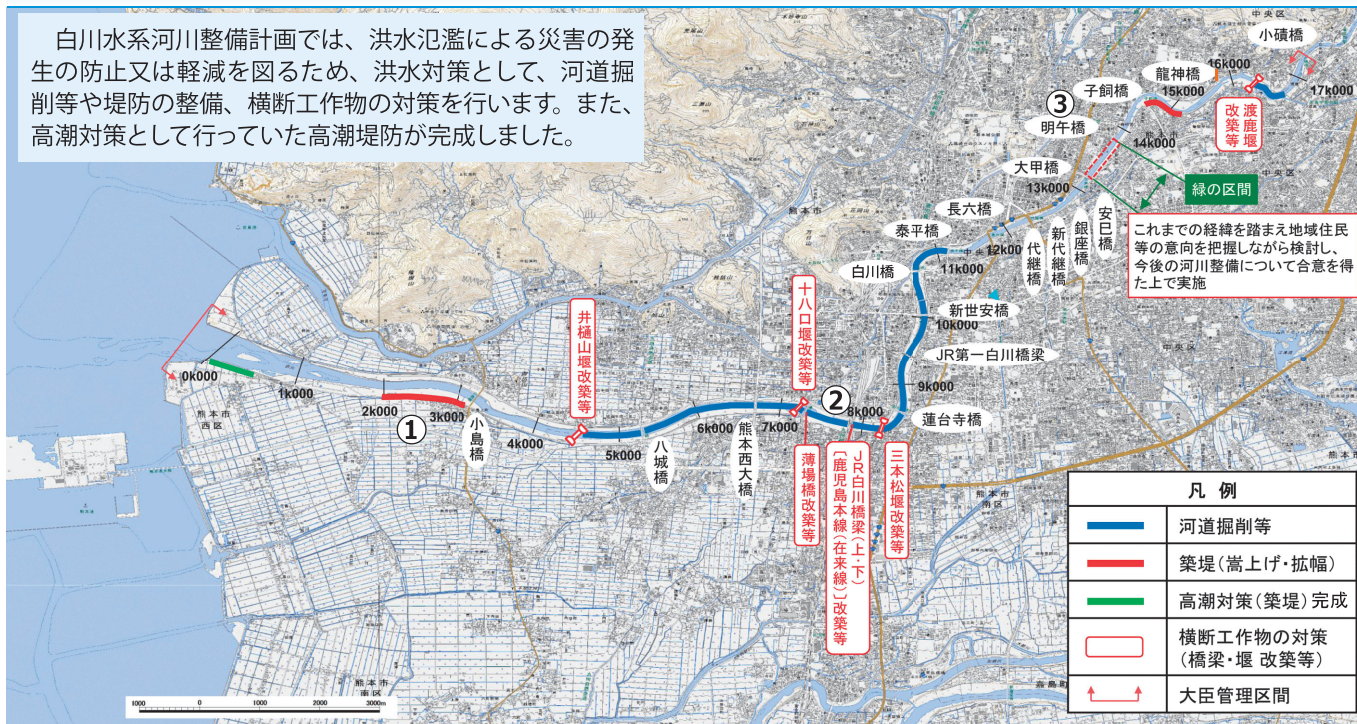
○変更計画（令和2年1月変更）  
 整備目標  
 年超過確率1/60

白川水系河川整備計画は、白川水系河川整備基本方針を基に、今後概ね30年間で実施する整備目標を定めたものです。  
 具体的には、洪水ピーク流量を基準地点「代継橋」地点で $2,700\text{m}^3/\text{s}$ とし、そのうち流域内の洪水調節施設により $300\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、河道の配分流量を $2,400\text{m}^3/\text{s}$ とします。  
 （年超過確率1/60の規模の洪水）



## 白川水系河川整備計画整備箇所位置図（洪水対策、高潮対策）

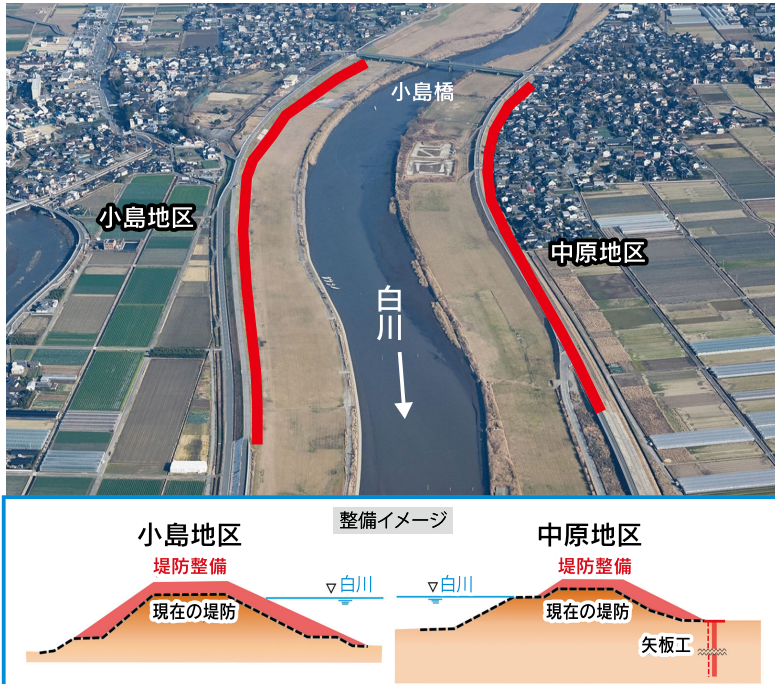
白川水系河川整備計画では、洪水氾濫による災害の発生防止又は軽減を図るため、洪水対策として、河道掘削等や堤防の整備、横断工作物の対策を行います。また、高潮対策として行っていた高潮堤防が完成しました。



# 白川の整備（現在の主な改修事業）

## ① 中原地区等堤防整備

堤防の高さ・幅が不足している中原地区、小島地区において、河川整備計画の目標流量 $2,400\text{m}^3/\text{s}$ に対し安全性を確保できるように堤防整備を行います。



中原地区整備状況



小島地区整備状況



## ② 下流固定堰群改築

河川整備計画の目標流量 $2,400\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流下させるため、洪水時の流下阻害となっている市街部下流の固定堰群(3堰)の改築を行います。

あわせて、平成28年の熊本地震以降、固定堰には上流からの流出土砂が著しく堆積したことから、堰の可動化により土砂堆積抑制を図ります。

### 事業概要

事業内容：固定堰群(3堰)の改築  
事業期間：着手から概ね10年間

#### 【新堰の諸元】

- 堰位置：7k500 ・ 堰長：122m ・ 径間長：42m×3径間
- 堰高：3.84m ・ ゲート形式：引上げ式ローラーゲート
- 基礎形式：場所打ち杭

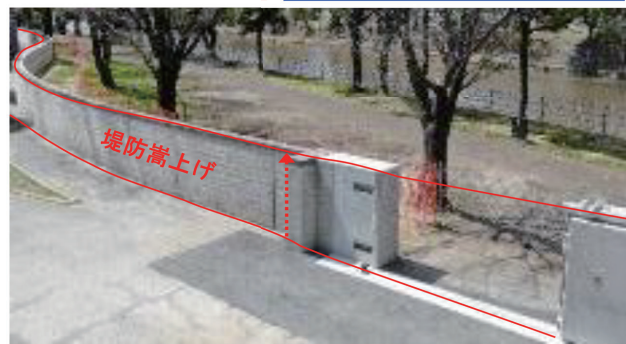
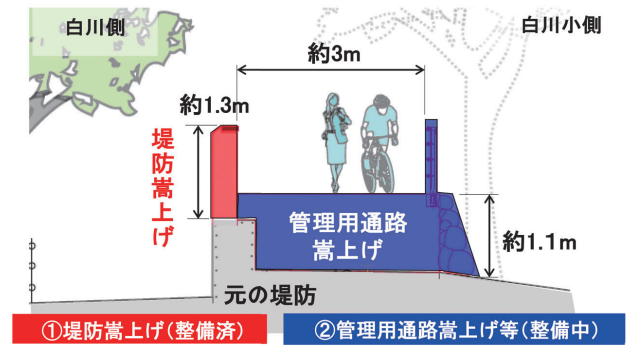
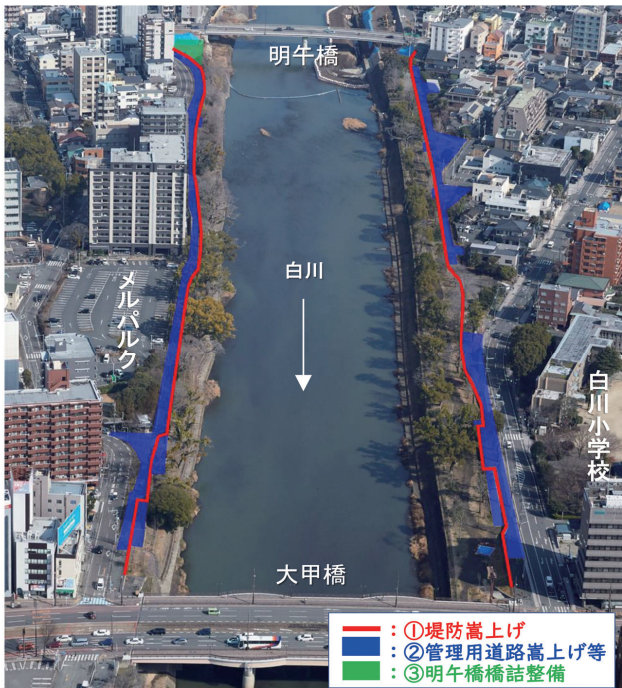
### 新堰完成イメージ



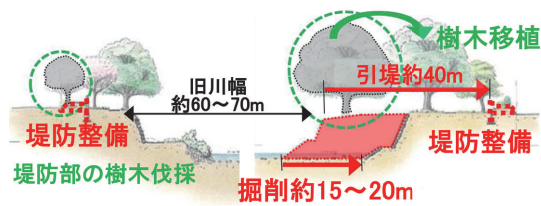
### ③「緑の区間」堤防嵩上げ

気候変動を考慮して変更した河川整備計画の目標流量 2,400m<sup>3</sup>/s を安全に流下させるため、地域住民等と合意形成を図りながら、堤防や管理用道路の嵩上げ等の整備(第Ⅱ期整備)を進めています。

#### ●第Ⅱ期整備【2,400m<sup>3</sup>/s対応<R2～>】



#### ●第Ⅰ期整備【2,000m<sup>3</sup>/s対応<完了>】



経緯	第Ⅰ期	第Ⅱ期
昭和61年	緑の区間改修計画公表(11月)	
昭和63年	白川河川懇談会(S63.4~H2.10)	
平成元年	白川市街部改修協議会(H1.4~H10.11)	
平成2年	7月出水<緑の区間で越水被害発生>	
平成9年	河川整備検討委員会(H9.4~6)	
平成10年	白川技術委員会(H10.12~H12.3)	
平成11年	白川流域住民委員会(H11.2~H25.3)	
平成12年	白川水系河川整備基本方針策定H12.12	
平成14年	白川水系河川整備計画策定H14.7	
平成16年	白川市街部景観・親水検討会(H14.11~H16.3)	
	緑の区間の整備計画(案)了承(白川流域住民委員会)	
	植栽検討・施設計画検討WG(H16.9~H19.2)	
平成18年	緑の区間の整備に着手	
平成19年	白川市街部景観・利活用検討会(H19.2~H30.3)	
平成24年	7月出水<緑の区間では越水に至らず>	
平成27年	緑の区間河川整備竣工(4月)	
令和2年	白川水系河川整備計画変更(1月)	
	近隣3校区住民等との勉強会(R2.1~10)	
	近隣3校区「堤防嵩上げ」要望書提出(R3.3)	
令和3年	白川「緑の区間」整備検討会(R3.4~)	
	白川「緑の区間」整備計画(案)公表(R4.3)	
令和4年	堤防嵩上げの整備に着手(R4.9)	

#### ●河川空間のオープン化(都市・地域再生等利用区域の指定)

「緑の区間」では、白川「緑の区間」利活用推進協議会が占有主体となり、都市・地域再生等利用区域に指定(R3.11)され、白川夜市の開催など水辺の賑わい創出や地域の活性化の取組が行われています。

今後も民間事業者等のアイデア・活力を活かした様々な取組を実施することにより、官民の連携及び河川敷を利活用した中心市街地の活性化が大いに見込まれています。



# 阿蘇立野ダムについて

## 阿蘇立野ダムの目的と効果

**目的** 阿蘇立野ダムは、白川沿川の洪水被害を防ぐことを目的とした洪水調節専用ダム（流水型ダム）です。

**効果** 昭和28年6月洪水と同程度の洪水を安全に流すことを目指して、基準地点である代継橋地点における基本高水のピーク流量 $3,400\text{m}^3/\text{s}$ を、阿蘇立野ダムにより $400\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節を行い、計画高水流量 $3,000\text{m}^3/\text{s}$ に低減し、洪水被害の防止又は軽減を図ります。



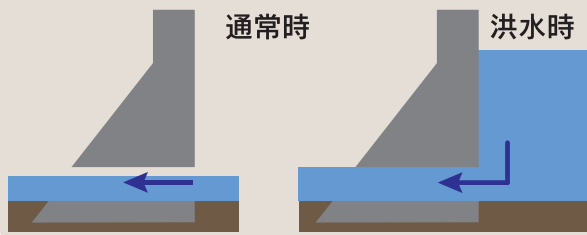
河川について

## 流水型ダムのしくみ

### 流水型ダムって？

川の高さと同様の高さに常用洪水吐（放流する穴）を設置し、平常時はダム湖がないダムのこと。

- ・川をダムで分断しないので水生生物が行き来できます。
- ・上流から流れてきた土砂のほとんどを下流に流すことができます。

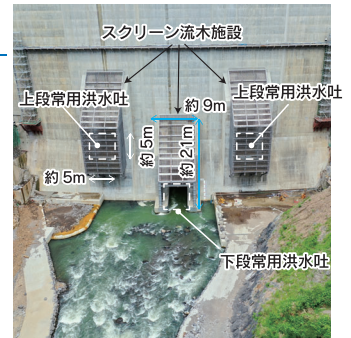


### 3つの穴で洪水調節をします

下段常用洪水吐を通して水が下流に流れ、洪水により流入する水が増加し、下段の常用洪水吐から流れる量より多くなると、次第に水が貯まり始め、上段常用洪水吐からも放流される仕組みになっています。

### 流木がつかまらないように

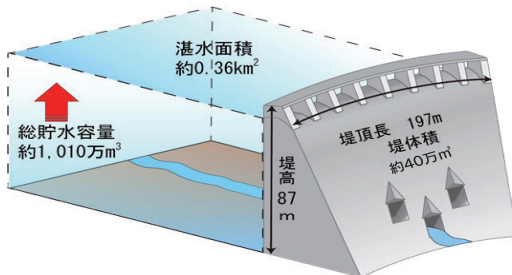
洪水調節時に、常用洪水吐が流木で塞がらないよう流木等捕捉施設や鋼製のスクリーンを設置しています。



## 阿蘇立野ダムの諸元・事業経過

阿蘇立野ダムは、日本最大級の流水型ダムです。

本体工事起工式から約5年間かけて本体工事を行い、令和6年3月に竣工しました。



諸元			
河川名	白川水系白川	堤高(高さ)	87m
形式	曲線重力式コンクリートダム	堤頂長	197m
集水面積	約383km <sup>2</sup>	堤体積(減勢工を含む)	約40万m <sup>3</sup>
湛水面積	約0.136km <sup>2</sup>	天端高	標高282.0m
総貯水容量	約1,010万m <sup>3</sup>	洪水時最高水位	標高276.0m

### 事業経過

昭和58年	建設事業着手
昭和59年	損失補償基準調印 (宅地・建物)
平成元年	損失補償基準調印 (農地・山林)
平成10年	南阿蘇鉄道移設に係る基本協定締結
平成14年	南阿蘇鉄道付替Ⅰ期工事完了
平成20年	水没地用地取得完了
平成26年	漁業補償契約調印
平成26年	仮排水路トンネル本体着工
平成28年	熊本地震
平成30年	仮排水トンネル本体完成
平成30年	本体建設工事起工式
令和2年	ダム本体コンクリート打設着工
令和3年	本体建設工事定礎式
令和5年	ダム本体打設完了式
令和6年	竣工

## 緑川流域の概要・特徴

緑川は、その源を熊本県上益城郡山都町の三方山に発し、御船川等の支川を併せて熊本平野を貫流し、下流部において加勢川、浜戸川と合流し有明海に注ぐ一級河川です。

流域には、歴史的な土木施設・かんがい施設や良好な自然環境、河川景観を有しています。

### < 緑川流域図 >



### < 緑川流域の緒元 >

源 流	熊本県上益城郡山都町三方山	
流域面積	1,100km <sup>2</sup> (九州7位)	
幹川流路延長	76km (九州7位)	
大臣管理区間	55.2km(ダム管理区間を除く)	
流域内市町村	緑川	30.8km
	加勢川	13.1km
流域内市町村	浜戸川	4.9km
	御船川	6.4km
流域内市町村	4市8町1村 熊本市、宇土市、宇城市、八代市、嘉島町、益城町、菊陽町、大津町、御船町、甲佐町、美里町、山都町、西原村	
流域内人口	約54万人	
想定氾濫区域面積	約172km <sup>2</sup>	
想定氾濫区域人口	約19万人	

※国土交通省HP分野別統計データより



歴史的にも重要な文化遺産が数多く残っています。

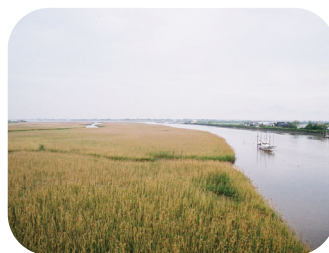
豊かな自然環境に恵まれています。



加藤清正が築造したともいわれる河港跡の階段護岸【国指定史跡】



ハートの見える石橋として知られ、川面を見ると太陽の光がハートに輝いて見えます



河口部に広がるヨシ原は環境省より重要湿地にも指定されています



キャンプやバーベキューを楽しむ人達で賑わいを見せる河川公園です

# 緑川の主な洪水

## 昭和63年5月洪水(御船川洪水)



梅雨前線の影響に伴い、昭和63年5月3日から4日にかけて集中的な豪雨となり、御船川流域の島木雨量観測所では1時間に94mmを記録、御船水位観測所では**計画高水位を約1.8m上回る6.46m**に達しました。この洪水により**御船川に架かる眼鏡橋が流失**するとともに、**八竜橋上流右岸の堤防決壊により、甚大な被害が発生**しました。

死者・行方不明者	3名	家屋全半壊	79戸
床上浸水	2,849戸	床下浸水	4,877戸

## 平成9年7月洪水



梅雨前線の影響に伴い、平成9年7月8日から11日にかけて、激しい雨が断続的に降り続けました。緑川流域においても津森雨量観測所では1時間に47mm、総雨量917mmを観測し、加勢川の大六橋水位観測所では**計画高水位を約10cm上回る5.00m**に達しました。

家屋全半壊	9戸		
床上浸水	132戸	床下浸水	1,200戸

## 平成11年9月台風18号



大型で非常に強い台風18号が9月24日未明に天草を通過し、熊本県北部に上陸。緑川河口、浜戸川が折しも大潮と重なり、**堤防を越水し、家屋浸水被害等が発生**しました。

死者・行方不明者	1名		
床上浸水	254戸	床下浸水	124戸

## 平成19年7月洪水



梅雨前線の影響に伴い、平成19年7月6日未明から降り続いた雨は熊本県各地に激しい降雨をもたらし、各地で記録的な豪雨を観測しました。緑川流域においても、時間雨量30mmを越える集中豪雨が数時間続き、内大臣雨量観測所で542mmを観測。中甲橋水位観測所では、**はん濫危険水位を47cm超え、観測史上1位となる5.07m**に達しました。

家屋全半壊	15戸		
床上浸水	69戸	床下浸水	497戸

※一般被害状況は、S63、H9、H11：熊本県防災・消防・保安年報、H19：熊本県危機管理・防災消防総室資料による



# 緑川の整備（河川整備基本方針・河川整備計画）

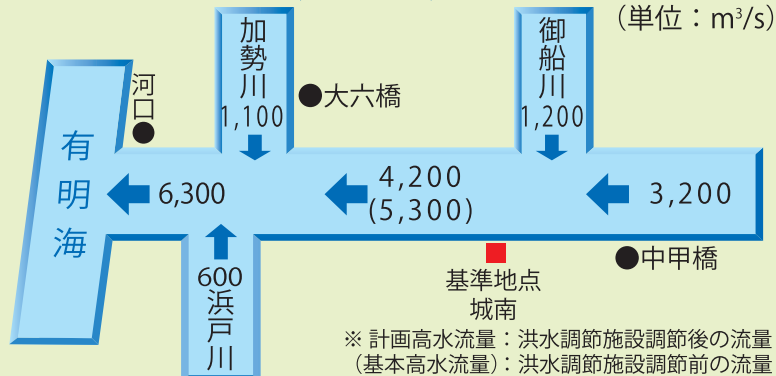
## 緑川水系河川整備基本方針（平成20年7月策定）

緑川水系河川整備基本方針は、昭和28年6月洪水等の既往洪水を踏まえ、計画を策定しています。

具体的には、洪水ピーク流量を基準地点「城南」地点で**5,300m<sup>3</sup>/s**とし、そのうち流域内の洪水調節施設により**1,100m<sup>3</sup>/s**を調節して、河道の配分流量を**4,200m<sup>3</sup>/s**とします。  
 （年超過確率**1/150**の規模の洪水）

計画規模：緑川流域の12時間総雨量**279mm**  
 想定最大規模：緑川流域の12時間総雨量**595mm**

### 緑川計画高水流量図（基本方針）〈長期的な河川整備の目標〉



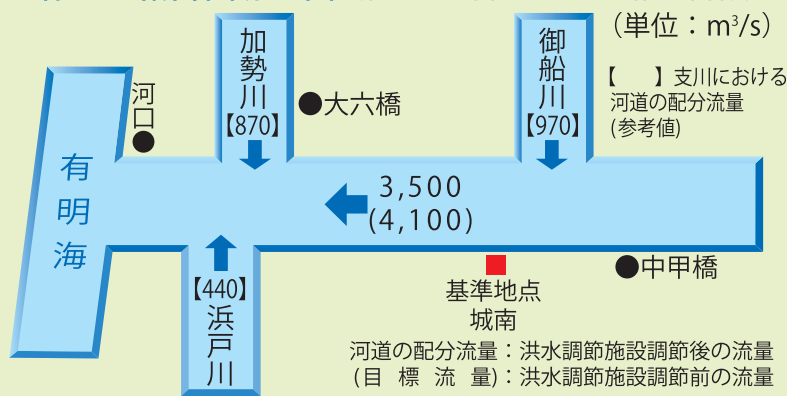
## 緑川水系河川整備計画（平成25年1月策定）

緑川水系河川整備計画は、緑川水系河川整備基本方針を基に、今後概ね30年間で実施する整備目標を定めたものです。

具体的には、洪水ピーク流量を基準地点「城南」地点で**4,100m<sup>3</sup>/s**とし、そのうち流域内の洪水調節施設により**600m<sup>3</sup>/s**を調節して、河道の配分流量を**3,500m<sup>3</sup>/s**とします。  
 （年超過確率**1/30**の規模の洪水）

昭和18年9月洪水に相当する洪水規模を目標にしています。  
 ※現在、気候変動を踏まえた緑川水系河川整備計画変更の手続きを進めています。

### 緑川整備計画流量図〈概ね30年間の河川整備の目標〉



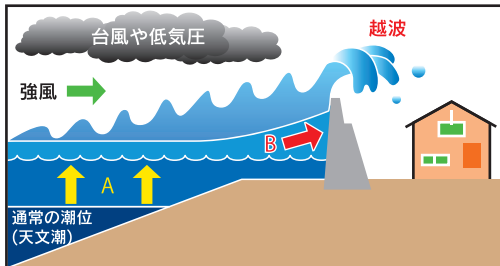
## 緑川水系河川整備計画整備箇所位置図



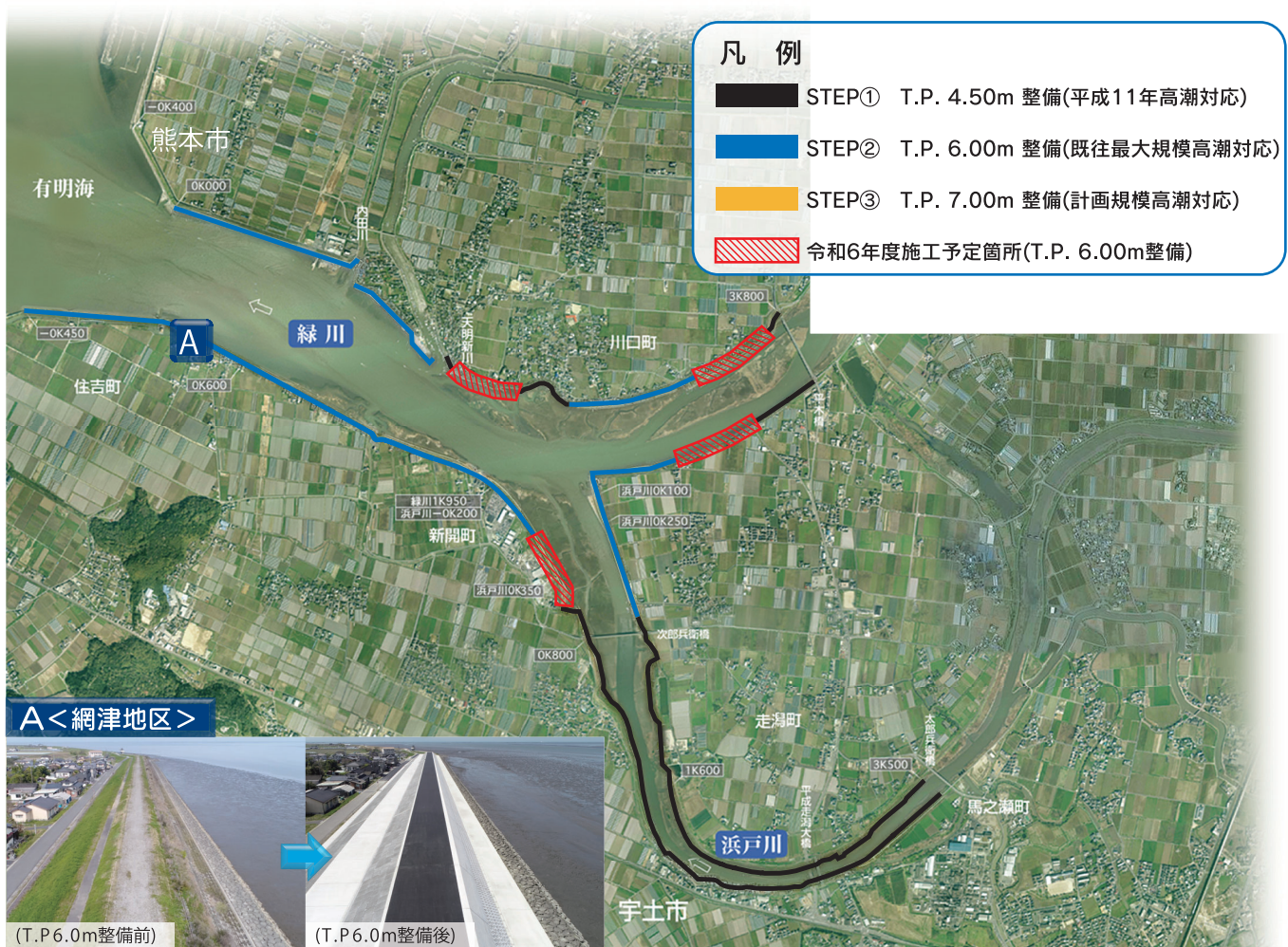
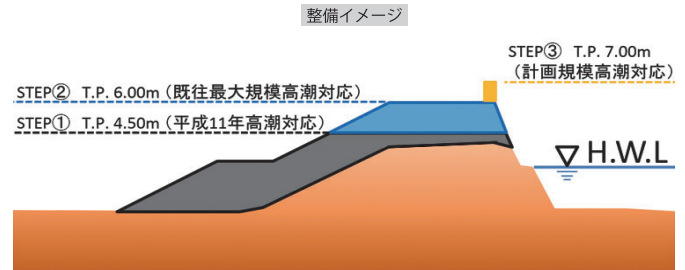
# 緑川の整備（現在の主な改修事業）

## ① 緑川・浜戸川における高潮対策事業

高潮による被害が発生する恐れのある河口付近において、第1段階として平成11年台風18号規模の高潮被害の解消を目的にT.P.4.5m(高潮Ⅰ期)の堤防整備を進めてきました。第1段階の整備が進捗したことから、令和2年度よりT.P.6.0m(高潮Ⅱ期)までの高潮堤防整備に着手しており、令和6年度も引き続き整備を進めていきます。



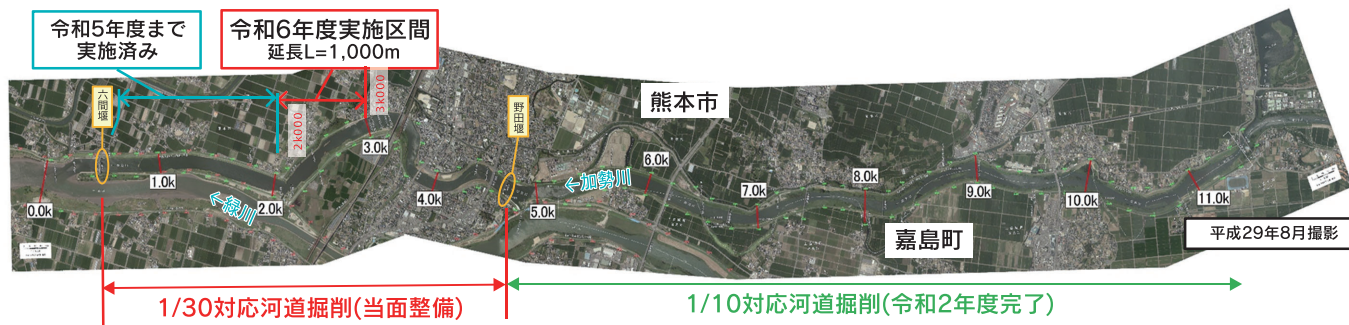
台風を中心気圧は周辺部より低いため、周辺部の大気は海面を押し付け、中心付近の大気は海面を吸い上げるように動く。その結果、台風を中心付近の海面が上昇(A)します。また強い風が海岸部に向け長時間吹き続けると、風下の海岸に海水を吹き寄せ(B)、海面が上昇します。



## ② 加勢川における河道掘削

加勢川は治水安全度が1/5程度と低かったことから、段階的に河道掘削を実施しています。

令和2年度に第1段階の1/10対応の河道掘削が完了したことにより、令和3年度以降は、第2段階の1/30対応における河道掘削を下流側の六間堰より実施しております。



## ③ 緑川における堤防整備

加勢川合流点下流に位置する美登里地区において、当面整備として、加勢川における河道掘削による洪水流量の増加に対応可能な堤防整備を進めています。

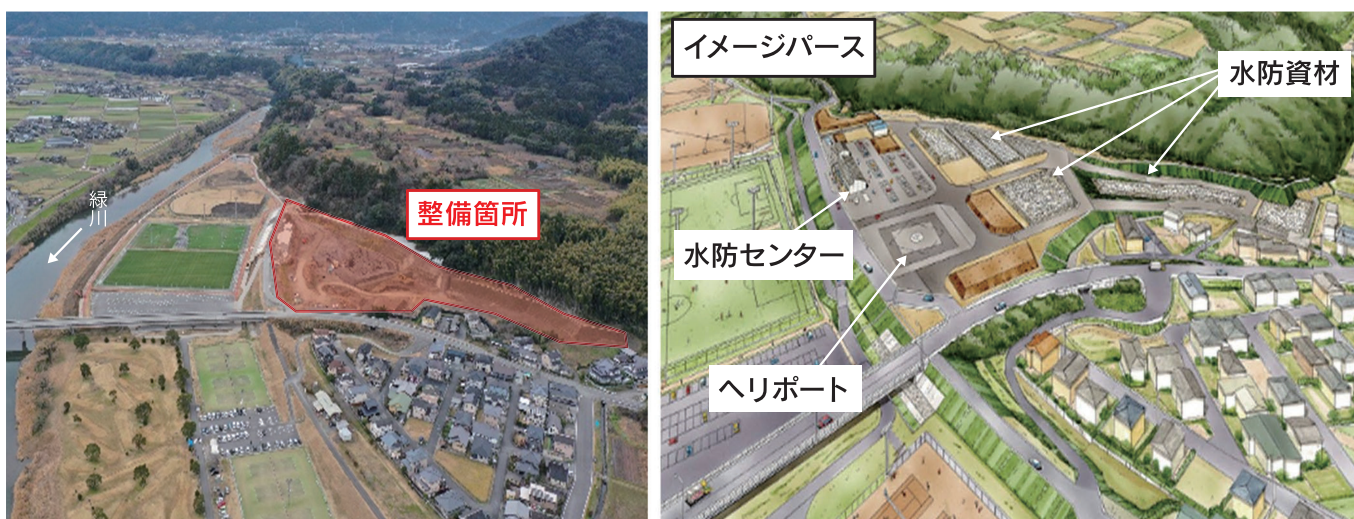


## ④ 船津地区河川防災ステーション(緑川)

船津地区において、緑川上流部における災害時の迅速かつ円滑な復旧活動を行うための防災拠点整備を実施しています。

防災拠点整備は、復旧活動に必要となる水防資材の備蓄、ヘリポート等のほか、甲佐町による水防活動を円滑に行う拠点となる水防センターを設置する計画として、令和3年度に整備に着手しました。

これまでに水防センターが完成しており、令和6年度は、前年度に引き続き基盤の整備を進めていきます。



# 流域治水プロジェクト

## 気候変動

気候変動による大雨等の災害の激甚化・頻発化が危惧されています。気温が**2℃上昇**した場合を想定した気候変動のシナリオでは、2040年頃には降雨量が**約1.1倍**、流量が**約1.2倍**、洪水発生頻度が**約2倍**になると試算されています。

白川・緑川流域においても気候変動による大雨等の災害の激甚化・頻発化が危惧されており、流域全体の1人1人が水害を自分事として捉えることが重要です。

気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇相当	約1.1倍

↓  
降雨量が**約1.1倍**となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	<b>約1.2倍</b>	<b>約2倍</b>

※流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は一級水系の河川整備の基本とする洪水規模(1/100～1/200)の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値

## みんなを襲う水災害

令和2年までの10年間、1回も水害、土砂災害が発生しなかった市町村は、わずか41。水災害は国民全員に関係し、これからリスクがますます高まろうとしている中、産官学民が協働して「流域治水」を推進し、社会の安全度を高めていくことが重要に。

↓  
行政の取組だけでなく、企業・団体、個人に流域治水の理解、浸透を図り主体的な行動を促していくことが重要。



## 流域治水

気候変動による水害リスクの増加を踏まえ、河川管理者が主体となって行う河川整備等の治水対策を加速化させることに加え、あらゆる関係者(国・県・市町村・企業・住民等)が協働して流域全体で行う「流域治水」を推進し、総合的かつ多層的な対策を行うことが重要です。

熊本河川国道事務所では、令和2年9月に「白川・緑川水系流域治水協議会」を設置し、流域自治体と連携しながら流域治水の取り組みを進めています。

白川・緑川水系では、流域全体における流域治水の取り組み内容を位置づけた「流域治水プロジェクト2.0」を令和5年度に策定しました。



## 白川・緑川流域での取り組み

白川・緑川水系流域治水プロジェクトURL [http://www.qsr.mlit.go.jp/kumamoto/river/ryuiki\\_chisui.html](http://www.qsr.mlit.go.jp/kumamoto/river/ryuiki_chisui.html)



■熊本市 まちなか再生プロジェクトの例

熊本地震からの創造的復興を加速する

## まちなか再生プロジェクト

容積率割増

高さ基準の拡充

財政支援

イメージ(現状)

- 防災** ...◇建物が老朽化し、災害時は不安  
◇災害時の避難：活動空間が不足し不安
- 歩行空間** ...◇歩道が狭く、歩きにくい
- 賑わい** ...◇駐車場や空きテナントが多く、活気がない

イメージ(将来)

- 防災** ...◇耐震性に優れた建物になり、災害時も安心  
◇災害時の避難：活動空間が確保され安心
- 歩行空間** ...◇歩道が広く、歩きやすい
- 賑わい** ...◇規模が大きく魅力的な建物が増加  
◇オープンスペースでイベントが開催され活気がある

災害に強く魅力と活力ある中心市街地の創造



森林整備(植樹・間伐等)(河川協力団体、学生)

# 環境整備事業（かわまちづくり）

## ■かわまちづくりとは

「かわ」とそれにつながる「まち」を活性化するため、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、地域の「顔」そして「誇り」となるような空間形成を目指します。

市町村において作成された「かわまちづくり」計画に基づき、整備を行います。

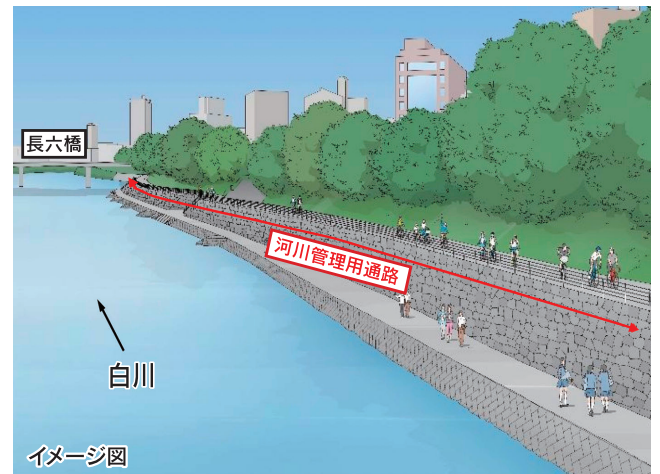
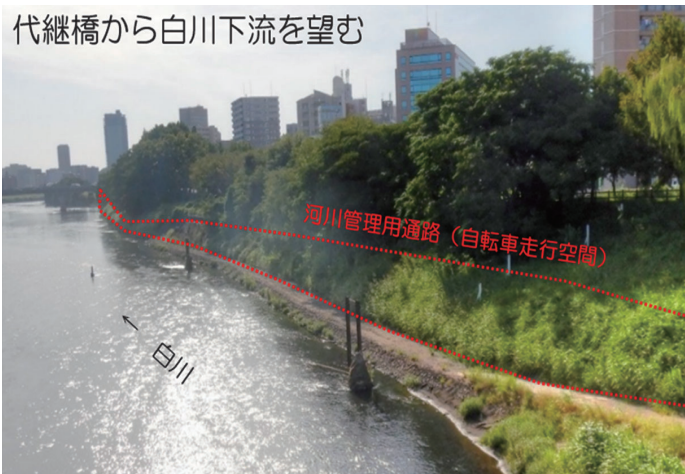
- ①地域の創意としての「知恵」を活かした計画を対象
- ②利活用方策が地域において明確になっているものを対象
- ③施設の維持管理に地域の協力が得られるものを対象



## 白川熊本市街部かわまちづくり（白川）

白川が流れる熊本市街部を「くまもの顔」として活性化し、魅力ある都市空間づくり等を目指すため、熊本市が進める自転車走行空間整備の取り組みに併せて河川管理用通路等を整備し、上下流の交流促進、河川景観の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図ります。 事業期間 2021年度-2030年度

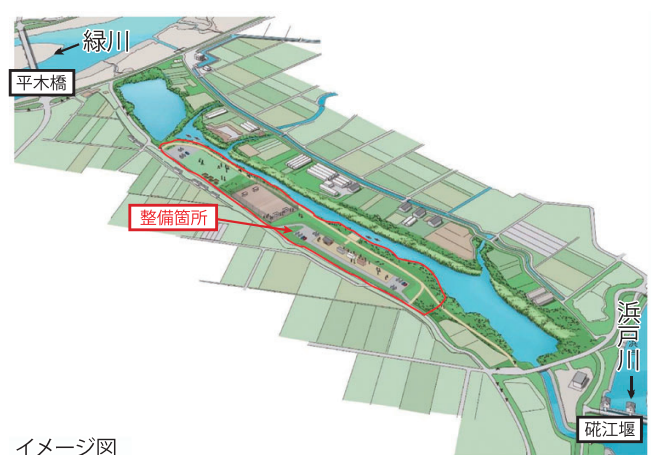
代継橋から白川下流を望む



イメージ図

## 宇土走潟地区かわまちづくり（緑川）

地域資源の有効活用により潤いあふれる美しい景観の創出を目指すため、宇土市と協力して緑川旧河道部を活用した親水護岸、管理用通路等を整備し、河川景観の向上、河川利用等の安全向上、河川管理の円滑化を図ります。事業期間 2022年度-2030年度



イメージ図

## 河川管理

### 日常の管理

～堤防や護岸、樋管等の河川管理施設がその機能を十分に発揮できるよう、日頃から点検等を行っています～

#### ●河川巡視



堤防や護岸、樋管等の河川管理施設の異常の発見、河川敷におけるゴミなどの不法投棄、不法占用などの違法行為を発見するため、河川のパトロールを行っています。

#### ●水質事故への対応



河川に油等が流出した際には、白川・緑川水質保全協議会において、関係機関が連携して情報連絡体制をとり、水質汚濁防止のための対策をとっています。

#### ●堤防管理



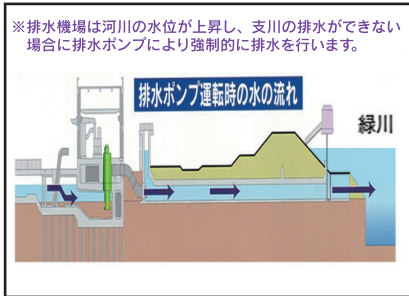
堤防の状態を把握するため、出水期前後（年に2回）に除草を行っています。その際に発生する刈草は、リサイクルに努めています。



堤防除草後には、徒歩による細かな堤防点検を行っています。また、河川構造物（樋門・樋管ほか）についても点検を行い、機能の健全性について確認をしています。

### 災害時の管理

～河川管理施設の操作や監視等に努め、災害による被害を最小限にするように努めています～



洪水のおそれがある場合は内水被害対策のための排水機場を稼働させるとともに、水防活動に対する情報収集支援や排水ポンプ車の派遣などを行い、洪水による被害を最小限に防ぎます。

## 河川管理の課題

### 外来水草対策



ボタンウキクサ



ナガエツルノゲイトウ



ホテイアオイ



ブラジルチドメグサ

加勢川を中心としてボタンウキクサなどの外来水草が夏場に河川の水面を覆うほどに増殖しており、水門等の施設の操作に悪影響を及ぼす外、流出して河口域や海域環境に影響を及ぼします。また、冬季に腐敗し、水質汚濁や悪臭が発生するなど、河川環境にも影響を及ぼします。それら外来生物対策として、沿川自治体で構成される緑川水系水草対策連絡協議会において、情報交換や水草駆除などを連携して実施しています。



除去された水草

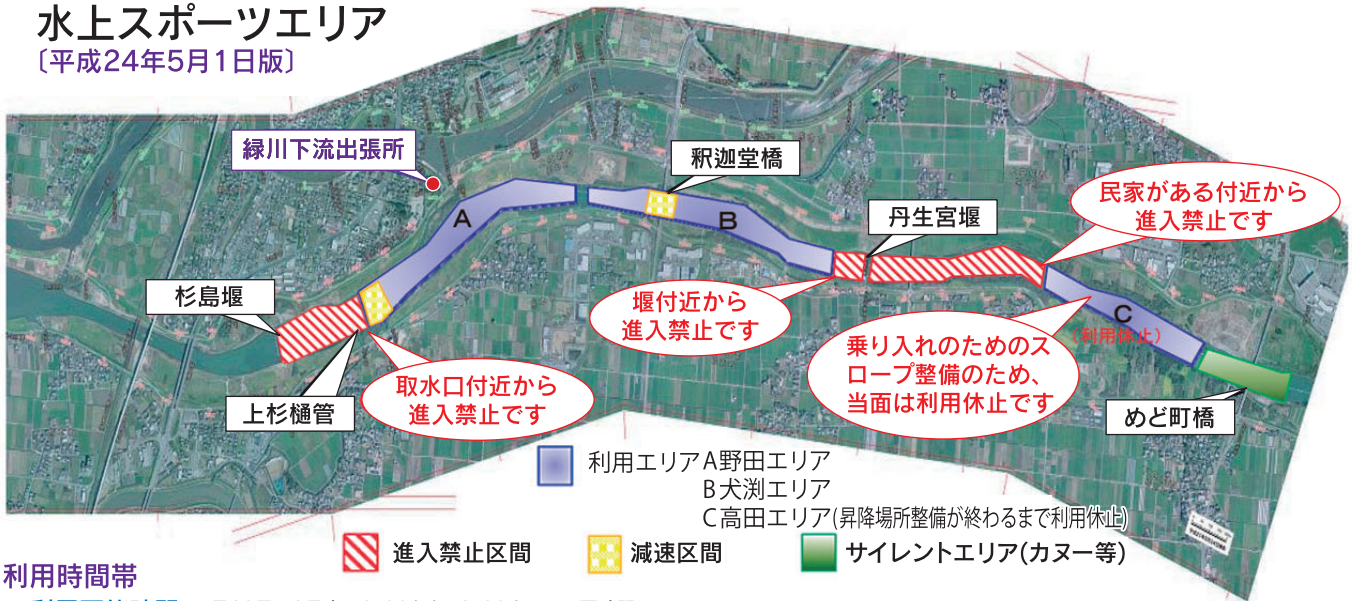


協議会による外来水草共同除去作業

# 水面利用のルール

緑川では水上のレジャーが盛んになるにつれ、漁業者や地域住民との間で、騒音やゴミ等の問題が生じるようになりました。そこで、水面の利用が適正に行われるように、緑川中流部水面等利用協議会（漁業者、水上レジャー利用者、利水者、行政等）を組織し、水面利用を進めています。

## 水上スポーツエリア 〔平成24年5月1日版〕



### 利用時間帯

**利用可能時間**  
 4月20日～9月末 9:00から18:00まで ※夏時間  
 (利用受付は17:00まで)  
 10月1日～2月末 9:00から17:00まで ※冬時間  
 (利用受付は16:00まで)  
 (準備8:30～、エンジン稼働9:00～、終了時間は片付けも含む)  
 バス釣りは、5:00からの早朝利用ができます。  
 ただし、6:00から8:59は、エレキ及び手こぎでの利用  
 (準備5:30～、利用6:00～、エンジン稼働9:00～、終了時間は片付けも含む)

### 利用禁止期間

3月1日～4月19日(鮎の遡上期のための配慮期間)



## 放置艇対策

緑川河口域では、無許可係留船や沈廃船等、およそ190隻以上が放置艇となっています。放置艇は、流水の障害、河道閉塞、水門等の施設の操作に支障がある外、廃船の沈下による漁業被害をおこす恐れがあり、緑川水系下流部放置艇対策連絡会議を組織して対策を行っています。

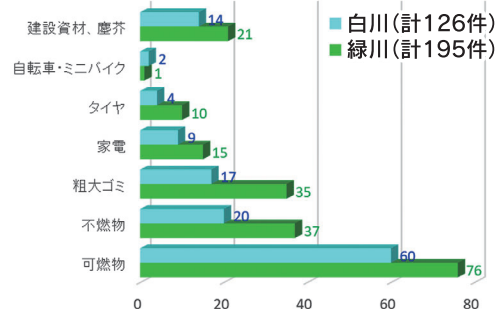


## 不法投棄対策

白川や緑川には、いたるところにゴミが捨てられており、環境にも多大な影響を与えています。美しい白川と緑川を取り戻すために、不法投棄をしない・させないように協力していきましょう。

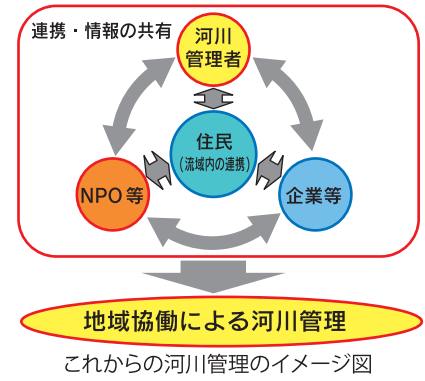


### 白川・緑川 不法投棄発見件数(R4年度)



# 流域連携・地域連携

これからの河川管理は、地域協働による河川管理を目指していきます。より良い河川管理に向けて、住民・企業・NPO等や河川管理者のそれぞれの特性を活かし、主体性と信頼関係を基に連携して取り組むことが重要です。地域協働による河川管理は、関係者が様々なレベルで情報を共有し、コミュニケーションを活発にしながら取り組んでいきます。計画策定から整備・維持管理までの一連のプロセスを通じ、様々な段階で住民の皆様が係われる仕組み作りを行うなど、住民の皆様が参加できる機会を増やします。



## 河川協力団体制度

### ■河川協力団体制度の目的

河川管理において、河川管理者と連携して活動するNPO等の団体を河川協力団体として指定し、自発的な活動を支援し促進させ、河川管理のパートナーとして活動していただくことにより、地域の実情に応じた多岐にわたる河川管理の充実を図るものです。

### ■河川協力団体の指定状況

現在、緑川水系4団体、白川水系2団体が、河川協力団体の指定を受けて活動しています。

### ■活動事例

白川においては、昨今の気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、熊本市の中心市街地において白川の特性と過去の洪水被害状況や防災・減災に向けたパネル展示等を行っています。緑川水系加勢川では、近年、外来水草が異常繁茂して生態系への影響が心配されるため、河川協力団体と河川管理者が連携して外来水草の除去活動を進めています。外来水草の除去活動を通じて、生態系を守ることの大切さを伝える活動にも取り組まれており、これらの活動は、地域住民やボランティア団体との交流、次世代を担う子供達への環境教育などにつながっています。

外来水草の除去（緑川水系加勢川）



6:26白川洪水動画視聴による啓発活動

## 流域一斉清掃

白川・緑川では地元住民や市民団体等が中心となり、流域一斉清掃に取り組んでいます。



H31.4.29「緑川の日」一斉清掃  
約2万人が参加



R5.8.6「しらかわの日」一斉清掃  
約1,000人が参加



R5.8.6「しらかわの日」一斉清掃  
集められたゴミの一部

## 出前講座・住民参加型学習会

熊本河川国道事務所では、防災や河川環境学習について出前講座を随時受け付けています。また、月に1回程度、一般市民を対象に「過去の水害の歴史」「水生生物調査」等の学習会を行っています。



出前講座（環境学習）



出前講座（水生生物調査）



住民参加型学習会（緑川の治水）